

はじめに

栃木県立図書館は、栃木県に関する印刷物や視聴覚資料など多様な情報を“地域資料”と称して積極的に収集するとともに、これを県民に提供するという役割を担っています。

このような認識のもと、“とちぎ”のことなら何でも分かる図書館を目指して、本県の歴史、自然、産業、芸術、文学等にゆかりのある資料を網羅的に収集し、「栃木県に関わる情報の総合窓口」として情報発信に努めているところです。

県及び県内市町の行政資料をはじめ、市町村史誌や広報誌、学校・大学の学校誌史・研究紀要、また県内だけでなく全国の出版社が手掛けた栃木県にまつわる出版物や県にゆかりのある方々の著書に至るまで、幅広く収集の対象としています。明治時代から脈々と受け継いできた蔵書数は、平成26年度末現在、図書約8万冊、雑誌約200タイトルです。

これらの貴重なコレクションを活用し、県民の皆様が栃木県について、より一層知識を深めていただければと考え、この度、「栃書類従 県民がよく使う栃木県の地域資料リスト」を作成しました。当館において、日頃より利用者の皆様に貸し出されている資料や職員が栃木県に関する調べもの（＝調査相談・レファレンス）において使用することの多い資料をもとに、リストを作成し、各資料の概要を紹介しています。

初版である今回は、「栃木県立図書館郷土資料分類表」に基づく「総記」・「哲学」・「歴史」の3分類にスポットを当ててリストを作成しました。「総記」は特定のジャンルによらず全体を総括する資料として研究紀要等が、「哲学」は哲学のほか宗教学も含まれるため寺社仏閣に関する資料が、そして「歴史」には栃木県の歴史及び地理に関する研究書が含まれます。

今後、他の分類につきましても順次追加していき、リストの充実を図っていく所存です。

本書が、県民の皆様の栃木県に関する調査研究の一助になりますとともに、当館地域資料がなお一層ご利用いただけることを願ってやみません。

平成28年3月

栃木県立図書館